

みどりとひと



No.125 みどりの新聞 平成15年9月1日 発行

秋

「暑さ寒さも彼岸まで」

…「暑い」「あつい」夏はもう終盤に…

みどり豊かな杉並の樹木…

ギラギラした灼熱の太陽から私たちを守ってくれた木々の木陰も

「実りの秋」の準備にとりかかり始める季節になりました。

「天高く馬肥ゆる秋」に向かって、木々たちは秋色の絵の具を搾り出して

「薄く、濃く思い思いの色素を葉っぱに送り出すと、公園や神社の森、

街路樹や川辺の草木が、紅葉を楽しませてくれるキャンパスに変身してくれます。

そして、色づいた葉は、爽やかな秋風から「ビュー、ビュー」と北風が吹き始めると、

「ヒラヒラ、かさかさ」秋を演出する落ち葉となります。しかし、枝から離れた落ち葉は風に舞いながら、

道端やベランダ、庭先などに吹き溜まり、

掃いても掃いても飛んできて、

あつという間に厄介もの扱いに……。

せつかく秋の美しい光景を楽しませてくれた

落ち葉を邪魔ものにしてしまうのは

残念な気がします。

秋を演出してくれた落ち葉のもう一つの

役割は、集めて「自然醗酵」させると

「腐葉土」となって土にかえり、樹木や草花、

野菜などの肥料やカブト虫をはじめ昆虫の

越冬の場所となるのです。

春になると私たちに若葉や花々、夏には

涼しい木陰を、秋は紅葉や種…このように

循環していく自然の原理を心の片隅において、

自然界の大切さを考えたいものです。



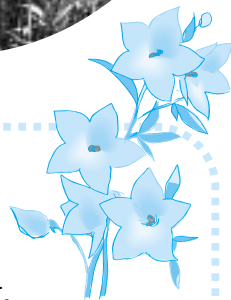
◀井草森公園

秋の七草

「秋の野に咲きたる花を指（および）折り
かき数ふれば七種（くさ）の花」

と山上憶良が万葉集で詠んでいるように、秋の七草は一千年以上も前から私達に親しまれています。春の七草は、粥に入れて食べることに
より無病息災を願うものですが、秋の七草は眺めて楽しむもので、
以下の七種を指します。

- はぎ 萩** マメ科の落葉低木で、蝶に似た形の紅紫色や白色などの花を穂状につけます。寺院などにも多く見られます。
- おぼな 尾花** イネ科の多年草で、「すすき」と言った方がわかりやすいでしょう。茎の先に花穂をつけます。屋根葺き、俵などの材料として日常生活に重要なものでした。
- くず 葛** マメ科のつる性多年草で、紅紫色の小さい花をつけます。根からはでんぷんを採りくず湯などに使われます。干した葛根は漢方薬によく使われます。
- なでしこ 撫子** ナデシコ科の多年草で、山野や川原などにも生えます。夏の終わり頃から咲く花は、淡紅色の繊細な感じ。
- おみなえし 女郎花** オミナエシ科の多年草で、葉は細く黄色い小花をつけます。干して煎じて飲むと解熱、浄血作用のある漢方薬。
- ふじばかま 藤袴** キク科の多年草で、葉は卵形で、淡紅色の小さい花が茎の上部に咲きます。中国から伝来し、野生化したといわれています。
- あさがお 朝顔** キキョウ科の桔梗を朝顔と称える場合が多いようです。青紫や白の釣鐘状の花は可憐。根は漢方薬となり、咳や痰を除き排膿作用もあります。



秋の七草を、観賞出来るところを紹介しましょう。

区立向陽中学校の万葉植物園（下高井戸3-24-1）

区立三泉淵緑地（高井戸東1-15-12高井戸東小学校そば）

2ヶ所とも七草すべてが見られるわけではありませんが、両方見ると七草がすべて見られます。

区外になりますが、7種すべてが見られる所を紹介しましょう。

向島百花園 文人墨客に昔から親しまれています。萩のトンネルなどもあり、月見の名所としてもよく知られています。行き方は浅草もしくは地下鉄半蔵門線から直通で、東武線東向島駅下車、西へ徒歩10分程です。

殿ヶ谷戸庭園 意外と知られてないようですが、武蔵野台地の八ヶといわれる崖線を利用した回遊式林泉庭園で、以前は三菱財閥の岩崎別邸でした。中央線国分寺駅南口から東へ、徒歩5分程です。

みどり探訪

みどり再発見。杉並のみどりやそれに関わる方々をご紹介します。

やさしい思いと歴史を秘めた「一草園」

戦後から阿佐ヶ谷駅北の繁華街の一角で楚々とした山野草を育て、道行く人にも愛されてきた「一草園」をご紹介します。

中央線快速の窓辺まで大枝を伸ばして、季節の頃には見知らぬ通行人にも路上に落ちるクルミのプレゼント！を続けている巨木。地上3mあたりには宿り木もいっしょに育っています。

その存在は地域の方々のみならず、近くの病院を訪れたおりなどに知った人々もある種の感動を覚え、再度訪ねる人も多いようです。

中杉通りのケヤキ並木と並んで、しっかりと風情を残し、通り過ぎる人々に夢を語りかけてくれる、今区内では数少ない場所です。



◀「父が残した庭は、そのままにしています。」と、ご家族の方



がんばって います!!

みどりのボランティア杉並

環境博覧会すぎなみ2003、みどりのボランティア杉並が積極参加

今まで行政主導で開催されていましたが、今回から区民・企業・行政が共に関わる「協働」というカタチに変わり、現在5つの部会に分かれ、準備が進んでいます。

そのうちのひとつ「みどりのまち部会」に、みどりのボランティア杉並も、企画から実際の催し運営と、積極的に関わっています。みどりのボランティア杉並が関わる催しの内容は下記のとおりです。

そのほか、みどりのまち部会では、会場の1階広場に芝生を敷き、その感触を味わっていただいたり、2階テラスの会場全体を緑化し、まるで散歩道の中にそれぞれの展示などのブースを配置する予定です。展示会場へのゲートは区内の造園会社の団体がつくりまします。また、今回の目玉は「杉並のみどり」をテーマとした様々な発表、意見交換、提案などをライブで行うシンポジウム会場があることです。第1日目には、子どもや大人を囲みみどりの環境づくりの紹介をおして会場の皆さんとの意見交換や専門家の話。2日目には、落ち葉を使って堆肥づくりをしている方々の情報交換やこれからを考える「落ち葉サミット」を開催する予定です。

環境博覧会すぎなみ2003は、様々な提案をもとに出発点(展)となるよう、いま実施に向けた準備が進められています。(みどりのまち部会長 みどりのボランティア杉並 能登山)

ピオトープネットワーク

「ピオトープの歴史を通して杉並型ピオトープとは」というテーマでの展示

自然観察の会

みどりのクイズラリー

植木応援団

活動の紹介

小枝のフレディ

植木応援団の活動で発生した剪定枝などを使った、草木染めの実演

会員有志

「杉並のみどり」をテーマとするシンポジウム

環境博覧会すぎなみ2003

みんなでつくる環境世紀

一次世代に 育てて 渡そう
よりよい環境—

10月11日(土) 12日(日)

午前10時~午後4時

高井戸地域区民センターにて開催

緑の歳時記

キンモクセイ(金木犀) = モクセイ科

残暑が収まった頃、街を散策していると甘い香りが漂ってきます。ふだんは目立たない、あちこちに植えられている橙黄色の小さな花を咲かせる常緑小高木。中国原産で明治に入って雄株が渡来しました。日本には雌株がないので、実はなりません。挿し木で増やしています。



モクセイは、漢名「木犀」の音読みで、「金」は花の色から。木犀は、木の皮膚が動物のサイ(犀)の皮膚に似ているので、そのようにいわれています。モクセイ属の仲間に、白色の花の銀モクセイ、これとキンモクセイとの中間色のウスギモクセイ(薄黄木犀)、ヒイラギモクセイ(柊木犀)などがあります。

キンモクセイは葉の汚れを嫌うので、水をかけて汚れを取ってあげれば、幸せそうに、甘い高い香りを放ってくれることでしょう。

花言葉は、謙遜。

英名は、フラグラント・オリーブ。(Fragrant Olive)



意外な場所で地名の由来

荻窪の地名の由来となった荻を見たことがありますか。近年は草原の減少とともに数が少なくなっ
てしまいいほとんど見かけませんが、意外な場所に植えられて
います。それはJR荻窪駅。中央線上りホームの北側に
荻が植えられています。実はこの場所は、杉並百景
にも選ばれています。通勤通学の途中、お出かけの際
にちょっとしたぞいで見てください。

また、このほどみどりのボランティア杉並などのの方々
により、新品の看板が立てられました。



みどりの実態調査結果がまとまりました

区内の緑に関する国勢調査ともいえる「みどりの実
態調査」が平成14年度に行われ、報告書ができました。
この調査は、みどりの条例に基づき、5年毎に行われて
きたもので、今回で7回目になります。調査は、緑被
率をはじめ樹木、樹林、壁面緑化、屋上緑化等の項目で
行いました。今回、緑被率は20.9%という結果になり
ました。

この報告書は、区立図書館、区役所2階区政資料室な
どでご覧になれます。また、区政資料室では、報告書
(3,200円)とこの調査のために撮影された航空写真「空
から見た杉並」(1,000円)を販売しています。

(仮称) 杉並南中央公園の整備が進んで います！

旧日本興業銀行グランド跡地(浜田山2丁目5番)を
区が買収し、約4.3ヘクタールの公園とするため整備を
進めています。今年の7月から第二期造成工事が始まっ
ています。これまで、平成12年度に区民参加によるワー
クショップ方式で公園憲章・基本計画案を策定してき
ました。13年度に公園の設計をし、14年10月から今
年3月まで第一期造成工事を行いました。第一期造成工
事では、北側の草地広場、築山、テニスコートを中心
に基盤整備が済みました。

現在、第二期造成工事が平成16年9月までの予定で、
公園南側の水生生物の池や日本庭園の整備など開園に
向けて進められています。来年秋には、区立公園とし
て最大規模となる防災公園に生まれ変わる予定です。

情報、お便りをお寄せください

「みどりとひと」は、区民の皆様と区をつなぐ新聞
です。企画、取材・記事作成から写真撮影までを「み
どりのボランティア杉並」の皆さんにお願いし、緑に
関する地域の情報や生活者の視点・発想を大切に編集
しています。

「みどりとひと」に皆様のお便りや地域の緑につい
ての情報をお寄せいただき、身近なものにしたいと考
えています。お便りや情報は、そのまま載せたり、取
材をして記事にしたりと、幅広く活用させていただきます。

お読みになった感想、とっておきの緑の情報、地域
のトピックスなど何でも結構です。ぜひお便りをお寄
せください(掲載は編集会議で決まります。次号は11
月末頃発行予定です)。あて先は、下記公園緑地課み
どりの計画係「みどりとひと」担当 まで

専門家に聞く

緑に関する専門相談は
塚山公園みどりの相談所
☎3302-9387
(毎週土・日曜日)

園芸ワンポイント

「秋からの肥料について」

夏を過ぎた植物は高温、湿気、水不足などでとても弱ってし
まいます。通常肥料は真夏と真冬は控えるか、与えない方が良
いので皆さんそうにしているとおもいます。

秋になり肥料を施す時には植物の状態をよく観察し、肥料不
足か水不足なのか暑さで弱っているのか判断し、弱っている時
はあせて濃い肥料を与えとかえてだめにしてしまいます。

涼風が立つ頃まではゆっくり回復させ、肥料を与える時は液
肥(ハイポネックス等)を薄めにし徐々に施すのが良いでしょ
う。また秋は肥料の成分のうち根をしっかりとさせる燐酸やカ
リの多いものを施すのが望ましく、購入の際に確かめること
が必要です。

実の付く庭木などは寒肥^{かんごえ}といって真冬に施すのが望ましいこ
ともあります。植物の種類等を良く知って適切な方法で植物を
元気にしてあげましょう。

指導：塚山公園みどりの相談所
澤地 家治 先生

<編集後記>

- ❖ 月日の流れは早く、またたく間に秋号の原稿締切りが近づいてしまいました。時間を大切にしなければ、と痛感しています。(中)
- ❖ 早いもので担当してから11ヶ月、今回は写真の他に、学習をして原稿を書きました。(青)
- ❖ 編集に参画して第3号目。紙面を通して「みどりのボランティア杉並」に関心をもって一人でも多くの区民に参加していただけるような魅力ある内容の「みどりとひと」に発展できればと思っています。(木)
- ❖ みどりの相談所に取材に行きました。相談員の先生のお話は楽しく勉強になりました。今年は梅雨が長く植物には日照不足、病虫害の発生が多く手がかかりました。その分、みどりの相談所はその類の相談が多かったのではないのでしょうか。(山)
- ❖ 常に紙面フレッシュを試みる「みどりとひと」ですが、継続記事も興味を持って読んでいただけるように「そんな所に、そんな緑があったの?」と、個人とその周辺の方で大切に守られている知られざる緑をあえてご紹介してゆきたい。又そんなところを探しています。(井)

みどりの新聞 125号 平成15年9月1日発行

【編集】みどりのボランティア杉並
【編集・発行】杉並区都市整備部公園緑地課

〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 ☎3312-2111 内線3464

R100

PRINTED WITH
SOYINK

この印刷物は、大豆油インクを使用しています。また、古紙配合率100%再生紙を使用しています。